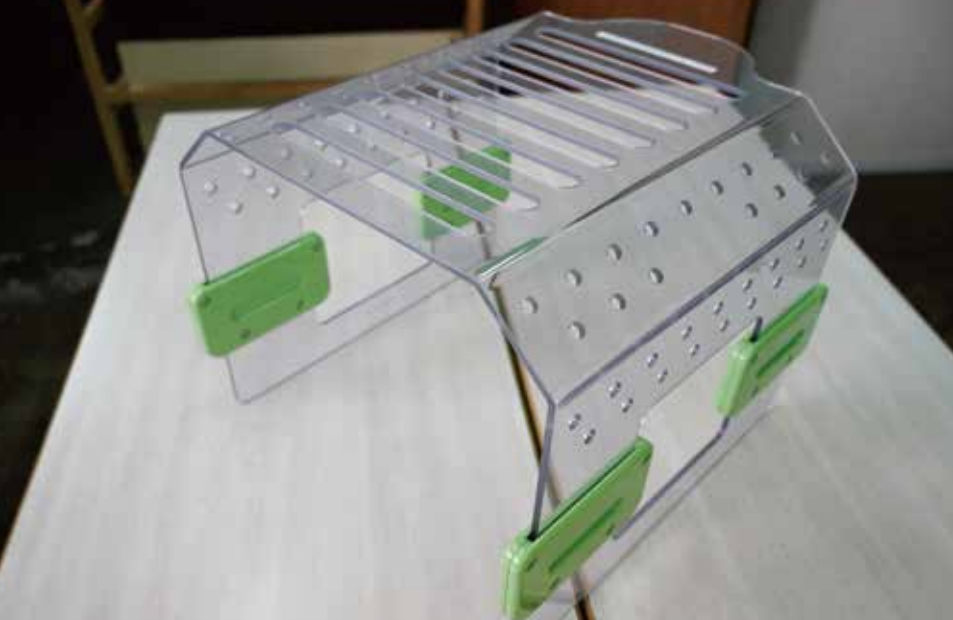




サポート台に足パーツを取り付けることで高さ調節が可能に



3Dプリンターで製作した従来の足パーツ



射出成型に切り替えることで量産化に成功した

MRIコイルサポート台の製品アイテム拡張と量産化

前例のないものこそ、恐れず積極的に取り組む

有限会社北海化成工業所は、令和4年度ノーステック財団・医療機関ニーズ対応型開発補助事業の支援を受け、コイルサポート台を開発した。コイルとはMRI撮影時に患者の胴体に乗せる装置で、サポート台を用いることで身体的負担を軽減できる。本事業では、サポート台の製品アイテムの拡張と量産化に取り組んだ。

もともと同社では長年の経験によるノウハウを活かし、巨大ソリや幅広スコップなど地域のニーズに応える製品を中心に、プラスチック製品の成形加工を手がけてきた。他社では対応しない小

ロットの案件にも応じ、水産現場からの要望に応えウニやアワビ、カニなどの養殖資材を製作。さらに、コロナ禍では医師からフェイスシールドの製作リクエストを受け、刻々と変化する状況の中で医療現場への納品に尽力した。同社は特定の分野にこだわらず、ユーザーの作業負担をいかに軽減できるかを常に考えている。「役に立つものをつくる」ことにまっすぐな会社だ。

現場の声が新しい何かをつくるモチベーションに

コイルサポート台は、患者の負担を軽減するだけでなく、現場の作業効率向上にも寄与する付加価値の高い製品である。さらに、同社以外に開発企業は存在せず、市場における優位性は極めて高い。令和4年度に開発したサポート台は、フィリップス社製MRIを所有する札幌医科大学のニーズに基づいて考案した。令和5年の発売開始以降、同機器を導入する他の病院からも多くの問い合わせが寄せられた。また、一部のMRIメーカーからも自社向けのサポート台開発を求める声が上がった。

そこで、MRIメーカー5社の各コイル形状に対応するアイテムの拡張と、共通部品となる足パーツの再設計を実施した。足パーツは、3Dプリンターによる製作から射出成型へ切り替えることで量産化を図り、さらに、抜けにくい構造を採用して使い勝手の向上も追求した。

同社は今後も現場のニーズに応じた改善を続ける。代表取締役の伊吹さんは、「これからも分野を問わず、仕事を頑張っている誰かの困りごとを解決したい。人に寄り添ったものづくりをしていきたい」と笑顔を見せた。

代表取締役
伊吹 敦



新たな分野への挑戦を恐れない。

自分も社員も決められた作業ばかりだと飽きてしまう。新しい取組を楽しみながら、今後も自分たちでなければ提案できない製品をつくり続けていきたいです。

公式ホームページはこちら

<https://hokkaikasei.co.jp>



有限会社北海化成工業所

札幌市白石区平和通11丁目北8-14 TEL 011-864-3185 FAX 011-865-2003
設立:昭和45年 従業員数:14名(アルバイト含む) 代表者:伊吹 敦

あなたのお好みの形に。

プラスチック製品の成型加工製造。他社が諦めるような複雑な案件も粘り強く形に。